

テレワークの定着を受けて、フリーアドレスのオフィスを検討する企業が増えている。スペースを節約するだけでなく、フリーアドレス化を機にコミュニケーションの活性化を目指す企業も少なくない。そうした企業の1つが、新生銀行グループのアプラスである。同社のIT本部は2カ所あったオフィスを1カ所に集約。オフィスの改修を経て、2021年9月にフリーアドレスに移行した。座席管理システムとして、同社が採用したのがサイオステクノロジーの「Office DARTS（オフィスダーツ）」である。Office DARTSは現在、基本的な使い勝手はそのままに機能強化した次世代製品「YourDesk(ユアデスク)」となっておりアプラスも移行中だ。

テレワークの定着を機にオフィスを集約 働き方改革を一層強力に推進する

新生銀行グループの一員として、アプラスはショッピングクレジット事業やカード事業、ペイメント事業を中心にビジネスを展開している。近年はフィンテック分野にも注力、デジタルへの取り組みを加速している。

同社は2019年ごろからテレワークに取り組み、場所にとられない働き方を推進してきた。当時は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催中の交通機関の混雑が予想されており、テレワークは期間中の出勤抑制の手段でもあった。

2020年春からのパンデミックは、五輪の1年延期とともにテレワークを一気に普及させた。こうした中で、アプラスのIT本部ではオフィス再編の議論が浮上。アプラスの石津健太郎氏はこう語る。

「IT本部内では、社員とベンダーから派遣された技術者などを含めて約150人が働いていて、以前のオフィスは秋葉原と新川の2カ所にありました。コロナ禍で出勤率が30%以下になったこともあり、2020年12月にオフィスを新川に集約しました」

出勤率低下によりスペースが余ったというだけでなく、これを機にオフィス改革に取り組み、働き方改革をさらに強力に進めるという狙いもあった。当然ながら、オフィスの集約は部門内コミュニケーションにも好影響があるだろうという考えもあった。

株式会社アプラス
システム企画部 部長
システムリスク管理室 室長
石津 健太郎 氏



その後、アプラスは2021年9月に新川オフィスを改修した。約100座席を用意したので、150人のうち3分の2を収容できる。テレワークの定着を前提とすれば余裕のある席数だ。併せて、リラクゼーションスペースなどの共有空間を充実させた。また、本格的なフリーアドレスの仕組みも導入。このとき、アプラスが採用したのがサイオステクノロジーの提供するフリーアドレス座席管理システム「Office DARTS(現 YourDesk)」である。

アプラスのIT本部は新たな統合オフィスでの再スタートを機に、コミュニケーションのさらなる活性化を目指している。そのための仕組みの1つとして、このツールが用いられている。アプラスにおけるオフィス改革の現在、そしてOffice DARTS(現 YourDesk)活用について次ページ以降で解説したい。

導入と管理の容易さを高く評価 直感的に操作できる使い勝手を実感

「150 人すべてを同時にオフィスに収容することはできません。そこで、座席を予約する仕組みが不可欠と考えました。いくつかのシステムを検討した上で、容易に導入できる点を高く評価して『YourDesk』の前身である『Office DARTS』を選びました。もちろん、価格面も重要な要素として考慮しています」と石津氏は話す。

Office DARTS の採用を決めてから導入までの期間は 1 カ月足らず。「オフィスの改修後、すぐに Office DARTS が使える状態になりました」と石津氏は振り返る。こうした導入の容易さのほか、わずかな工数で運用できる点もポイントだったようだ。

「ベンダーから派遣されたエンジニアなどは、特定のプロジェクトの期間中オフィスに出社します。したがって、様々なプロジェクトの開始・終了に伴い、人が入れ替わることになります。その度に登録や登録抹消、ユーザーからの申請を受けて ID を発行する手続きなどが必要です。また、座席を配したフロアマップなどのデータの設定を含め、管理者が担う業務がいくつかあります。こうした管理業務についても、Office DARTS なら容易にできそうだと考えました」(石津氏)

すでに、Office DARTS を使い始めてから約半年が経過した。その間はウィズコロナ期間が続き、IT 本部の出社率も 3 割程度で推移している。したがって、100 席のオフィスはまだ相当の余裕がある。ある意味では特殊な環境下ではあるが、Office DARTS は問題もなくオフィスの座席管理の仕組みとして定着している。

「Office DARTS の管理担当者とユーザーからは、不満や要求のようなものは聞いていません。何もいわれないことが、満足を意味していると思っています」と石津氏はいう。

ユーザーは会社支給の iPhone を利用して、どこからでも座席の予約ができる。その使い勝手について、石津氏はこう続ける。

「使い始めて実感したのは、Office DARTS の使いやすさです。直観的に操作できるので、ほとんど知識がないユーザーでもすぐに慣れます。導入前に 1 度、ビデオ会議で説明会を開いたこともあって、導入直後の時期にも問い合わせはほとんどありませんでした。また、ベンダーから新たに派遣された方にはごく簡単な説明をしています、すぐに使い方を分かってもらえます」

また、石津氏はコロナ対策という観点でも、Office DARTS のメリットを感じているようだ。

「陽性者が発生したとき、誰がどの席に座っていたかという履歴をたどることができます。その記録を見て、陽性者の周辺で座席予約をした人を特定し、注意喚起などが行えます」

フリーアドレスの特性を生かした コミュニケーションの活性化を目指す

Office DARTS にはフリーアドレスの座席をランダムに選ぶ機能がある。検討段階において、アプラスはこの機能も高く評価していたという。フリーアドレスに移行した後、近くの座席にいつものグループが固定してしまうケースはよく見られる。多様なメンバーとの相互交流を促す意味でも、フリーアドレスは有効と考えた。

しかし、出社率 3 割程度という状態では、この機能の良さを十分に引き出せないかもしれない。そこで、今のところはランダム抽選の機能は使っていないという。

「オフィス改修やフリーアドレス導入の狙いの 1 つは、コミュニケーションの活性化です。そのために、以前のオフィスにはあった役員や部長用の席もなくなりました。今後、出社率が上がっ

てくれれば、ランダム抽選機能を使ってみたいと思っています。例えば、新入社員が役員や部長と隣り合わせになることもあれば、あまり話をしたことの無い同僚同士でちょっとした会話が始まることもあるでしょう。そうした形で普段のコミュニケーション、人間関係づくりをサポートしていきたいですね」と石津氏は考えている。

なお、「Office DARTS」は 2022 年 2 月から新バージョンの「YourDesk（ユアデスク）」となり、様々な機能拡張も実施されている。

例えば、操作性がさらに向上するとともに、QR コードによるチェックイン機能によりユーザーの利用時間を把握できるようになった。1 週間分まとめて予約ができるなど、予約の取り方もラクになるとともに、シングルサインオン機能、Google カレンダー連携、Microsoft 365（Outlook）カレンダー連携、英語対応機能なども追加された。

「オフィスには海外出身の技術者もいるので、英語に対応できるようになるのはとてもうれしいですね」と石津氏。

「テレワークで人間関係が希薄化するといった議論もありますが、もともと人間関係をしっかり構築していなかったからテレワークで孤立感を深めてしまうという側面もあると思います。フェース・ツー・フェースの関係づくりがコミュニケーションの基盤でしょう。こうした観点からも、フリーアドレスの特性を生かしたコミュニケーション活性化を促したいと考えています。もちろん、ランダム抽選機能も活用したいですね」と石津氏はこれからの抱負を語る。

アフターコロナの時代を見据えて、アプラスは次の一手を思い描いている。IT 本部だけでなく、新生銀行グループ全体のコミュニケーション活性化を目指す施策がやがて実行に移されるはずだ。

PC 版とスマホ版の YourDesk の画面例。 直感的な操作ができる



お問い合わせ先

サイオテクノロジー株式会社


050-1742-6347

9:00~17:30 土・日・祝を除く


yourdesk_sales@sios.com

SIOApps Service Line YourDesk担当まで


yourdesk.jp